

国内マグネシウム 2021 年需要実績/2022 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

(単位：トン)

分類\年	2017	2018	2019	2020	2021	21/20 比	2022 予測	22/21 比 予測
ダイカスト	4,800	5,200	5,100	4,700	5,200	110.6%	5,200	100.0%
鑄物	70	130	190	100	100	100.0%	100	100.0%
射出成形	480	960	1,200	960	1,000	104.2%	1,000	100.0%
展伸材	770	800	800	700	800	114.3%	800	100.0%
その他合金	230	400	300	200	200	100.0%	200	100.0%
構造材小計	6,350	7,490	7,590	6,660	7,300	109.6%	7,300	100.0%
アルミ合金添加	22,000	17,100	17,000	14,500	16,500	113.8%	17,000	103.0%
鉄鋼脱硫	5,500	4,000	4,140	3,000	3,500	116.7%	4,000	114.3%
ノジュラー鑄鉄	2,600	2,700	2,700	2,520	2,500	99.2%	2,700	108.0%
チタン製錬	600	700	1,010	1,000	440	44.0%	1,000	227.3%
化学・触媒	1,800	1,800	1,500	1,350	1,300	96.3%	1,500	115.4%
添加材小計	32,500	26,300	26,350	22,370	24,240	108.4%	26,200	108.1%
防食その他	990	1,100	925	1,000	1,230	123.0%	1,300	105.7%
内需小計	39,840	34,890	34,865	30,030	32,770	109.1%	34,800	106.2%
輸出	227	258	225	102	140	137.3%	200	142.9%
総需要	40,067	35,148	35,090	30,132	32,910	109.2%	35,000	106.4%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

<2021 年の需要実績>

- ①2021 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 9.6%増の 7,300 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 8.4%増の 24,240 トン、防食その他向けが同 23.0%増の 1,230 トン、輸出が同 37.3%増の 140 トンとなり、全体では同 9.2%増の 32,910 トンとなった。同年後半に、中国におけるエネルギー抑制政策の影響により原料供給不安、価格高騰という状況になったこともあり、2019 年以前の水準までには達しなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた 2020 年からは回復基調となった。
- ②コロナ禍が続いたものの、製造業全体が回復基調になったことにより、マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要も回復基調となった。主要なダイカスト部門が前年比 10.6%増の 5,200 トン、射出成形部門が同 4.2%増の 1,000 トン、展伸材部門が同 14.3%増の 800 トンとなり、鑄物部門とその他合金は横ばいでの推移となった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、アルミニウム、鉄鋼の需要回復により、アルミ合金添加部門が前年比 13.8%増の 16,500 トン、鉄鋼脱硫部門が同 16.7%増の 3,500 トンとなった。ノジュラー鑄鉄部門、化学・触媒部門はほぼ横ばいで、それぞれ同 0.8%減の 2,500 トン、同 3.7%減の 1,300 トンとなり、チタン製錬部門は、航空機分野においてコロナ禍の影響が続いていることもあり同 56.0%減の 440 トンとなった。
- ④防食その他は、防食向けの需要が約 100 トンで、これはほぼ横ばいで推移し、その他の特殊な用途における需要が増加し前年比 23.0%増の 1,230 トンとなった。
- ⑤輸出は財務省貿易統計の純マグネシウム地金及びマグネシウム合金地金の合計で、前年比 37.3%増の 140 トンとなった。

<2022 年の需要予測>

- ①構造材向けの需要は、マグネシウムの価格高騰が続いていること、また主要な自動車分野における生産台数減産や世界情勢の影響を受け、需要増加への見込みが低いことから、各部門とも横ばいでの推移となり、合計も横ばいの 7,300 トンと予測した。
- ②添加材向けの需要も、各材料の価格高騰や世界情勢の影響により大きな需要増加は見込めないものの、アルミ合金添加部門が前年比 3.0%増の 17,000 トン、鉄鋼脱硫部門が同 14.3%増の 4,000 トン、ノジュラー鑄鉄が 8.0%増の 2,700 トン、化学・触媒部門が同 15.4%増の 1,500 トンと 2019 年の水準までに回復し、チタン製錬部門も世界情勢により国内生産の増加が期待されることから同 127.3%増の 1,000 トンとなり、合計は同 8.4%増の 26,200 トンと予想した。
- ③防食その他および輸出は若干の増加で推移するものと予測した。
- ④2022 年の国内マグネシウム総需要量は、2019 年の水準までに回復し、前年比 6.4%増の 35,000 トンと予測した。

以上